



キリン食生活文化研究所

2020年2月12日

レポート vol.83

～あなたの暮らしのアンケート～

働き方の多様化

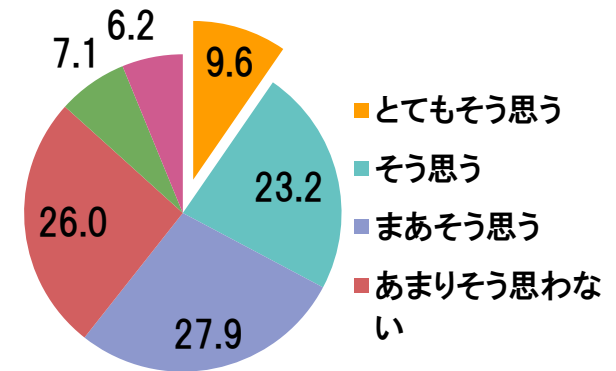
サマリー

あなたは、どんな働き方をしてみたいと思いますか？

麒麟食生活文化研究所は、「働き方の多様化」について調査を実施(2019年11月26日～12月3日、全国、ウェブ調査)、男女20～79歳 計18,634名の方の回答をまとめました。

今、収入を得ている仕事は自分に生きがいに繋がっているかという質問では、約10%が「とてもそう思う」と、約25%が「そう思う」と回答しており、概ね仕事が自分の生きがいに繋がっている人が多いようです。一方で、今よりもっと時間をかけたいこととして、家族との時間や趣味、運動等プライベートに関する項目の回答が多くあり、これは「ベーシックインカムがあれば働く時間を減らして家族やスキルアップの時間に使いたい」と回答があったように、収入だけでなく家族や自己実現の充足も“豊かな生活”に繋がっていることが分かります。また、仕事のイメージは女性の方がより「社会のつながりをもてる」というイメージを持っているようです。ベーシックインカムの回答でも、仕事が社会とのつながりを持つことに繋がっている(そのため、仕事する時間は減らすがやめたくない)という回答も多く、ライフイベントがある中でも社会とつながっていたいという意向がうかがえました。副業に関しては、若年層の方が興味を持っている人が多く、「やってみたい働き方」の項目でも回答があるように、より柔軟性がある働き方を希望する声が多いようです。

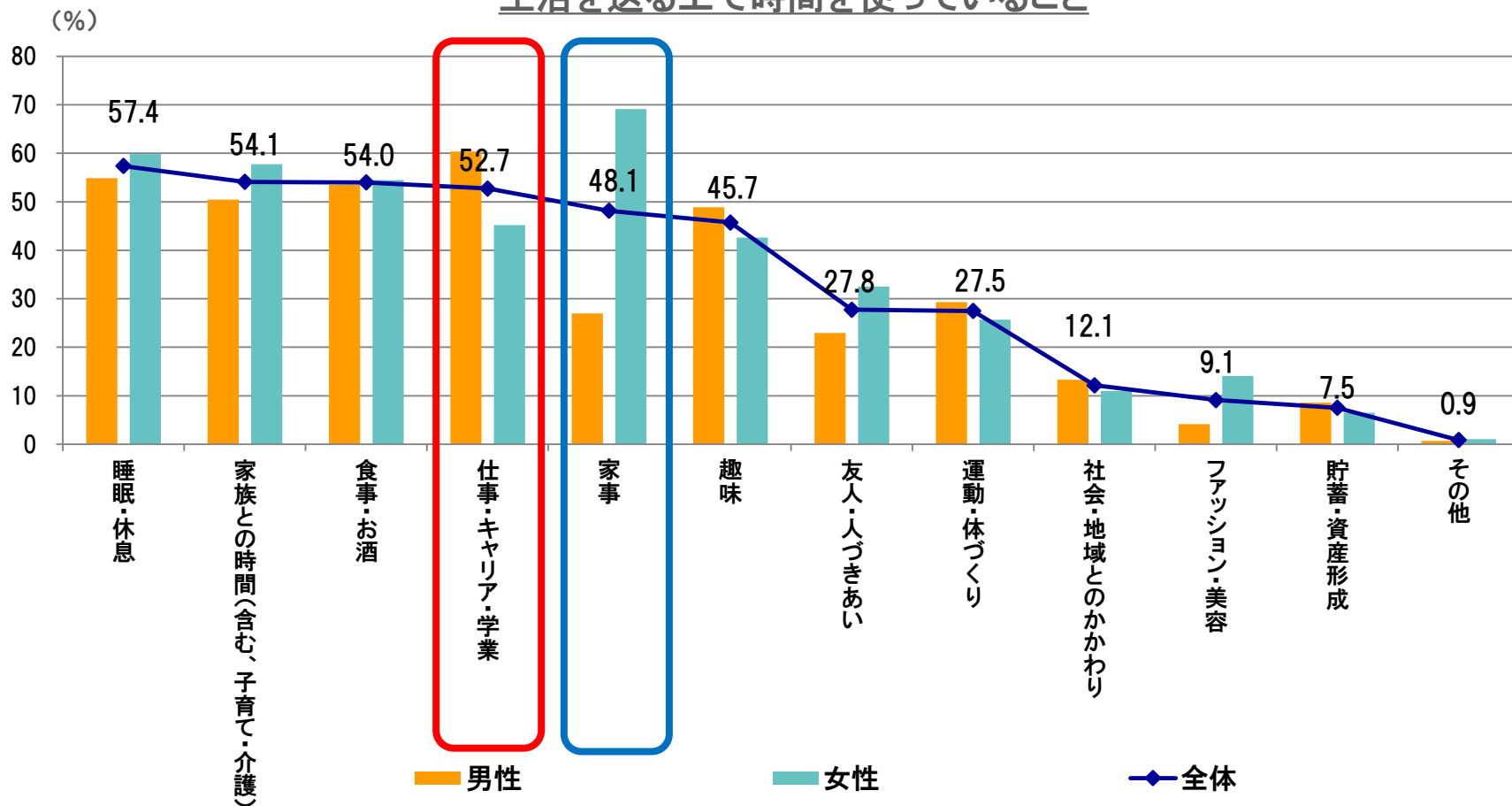
Q.今、自分がメインで収入を得ている仕事は、自身の生きがいに繋がっていると感じますか？



Q.あなたが生活を送る上で時間を使っているのはどんなことですか？

今の生活で何に時間を使っているか聞きました。全体では「睡眠・休息」「家族との時間」「食事・お酒」がトップですが、男性においては「仕事・キャリア・学業」がトップ、女性においては「家事」がトップに来ており、性別でも時間の使い方に特徴があることが見受けられます。

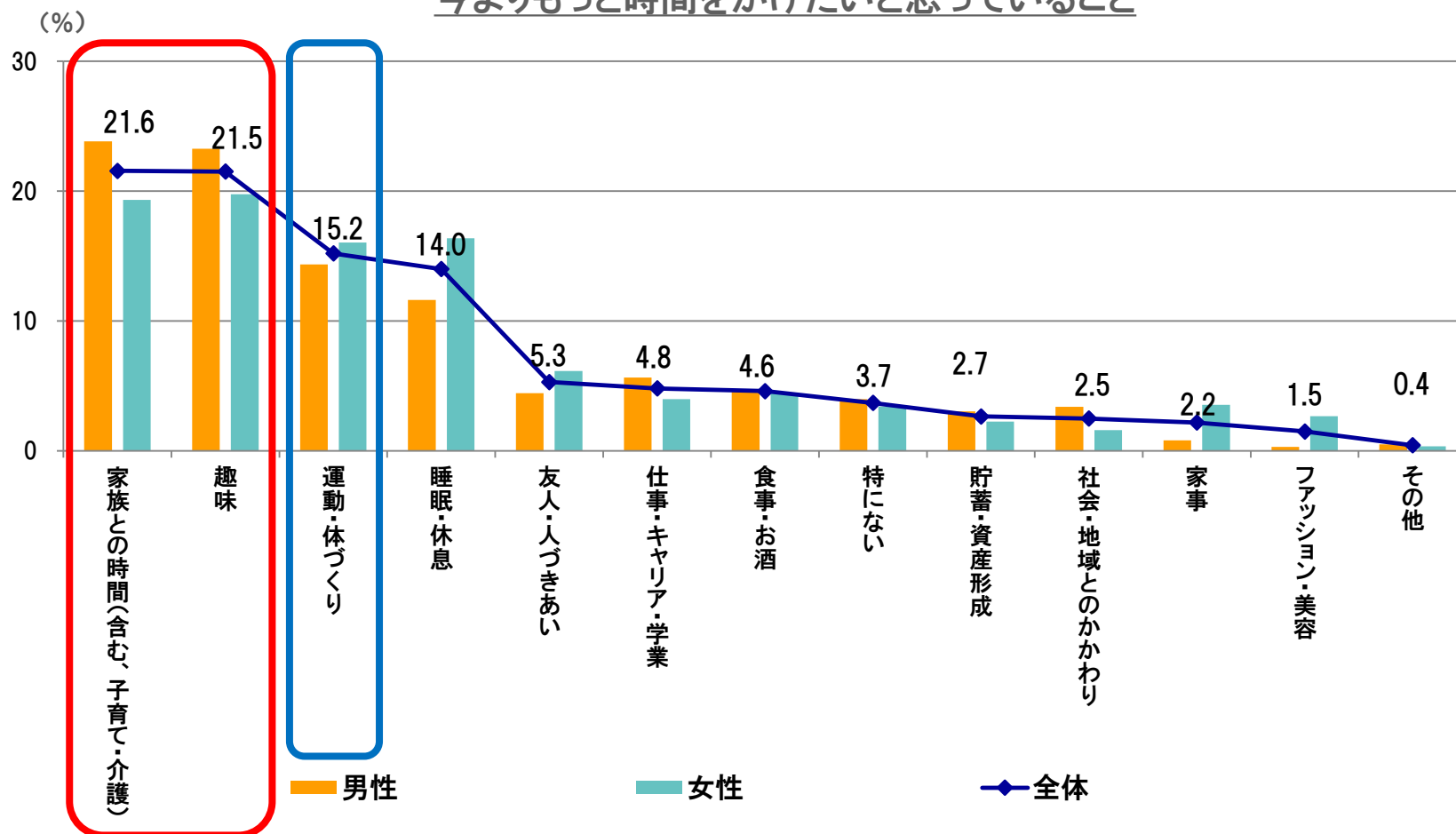
生活を送る上で時間を使っていること



Q.今よりもっと時間をかけたいと思っていることは？

今よりもっと時間をかけたいと思っていることを聞きました。前項で回答の多かった「家族との時間」はこちらでも上位に来ており、特に男性においてもっと家族との時間を増やしたいと考えている人が多いようです。また、「趣味」「運動・体づくり」といった個人の時間を増やしたいと考えている人も多いようです。

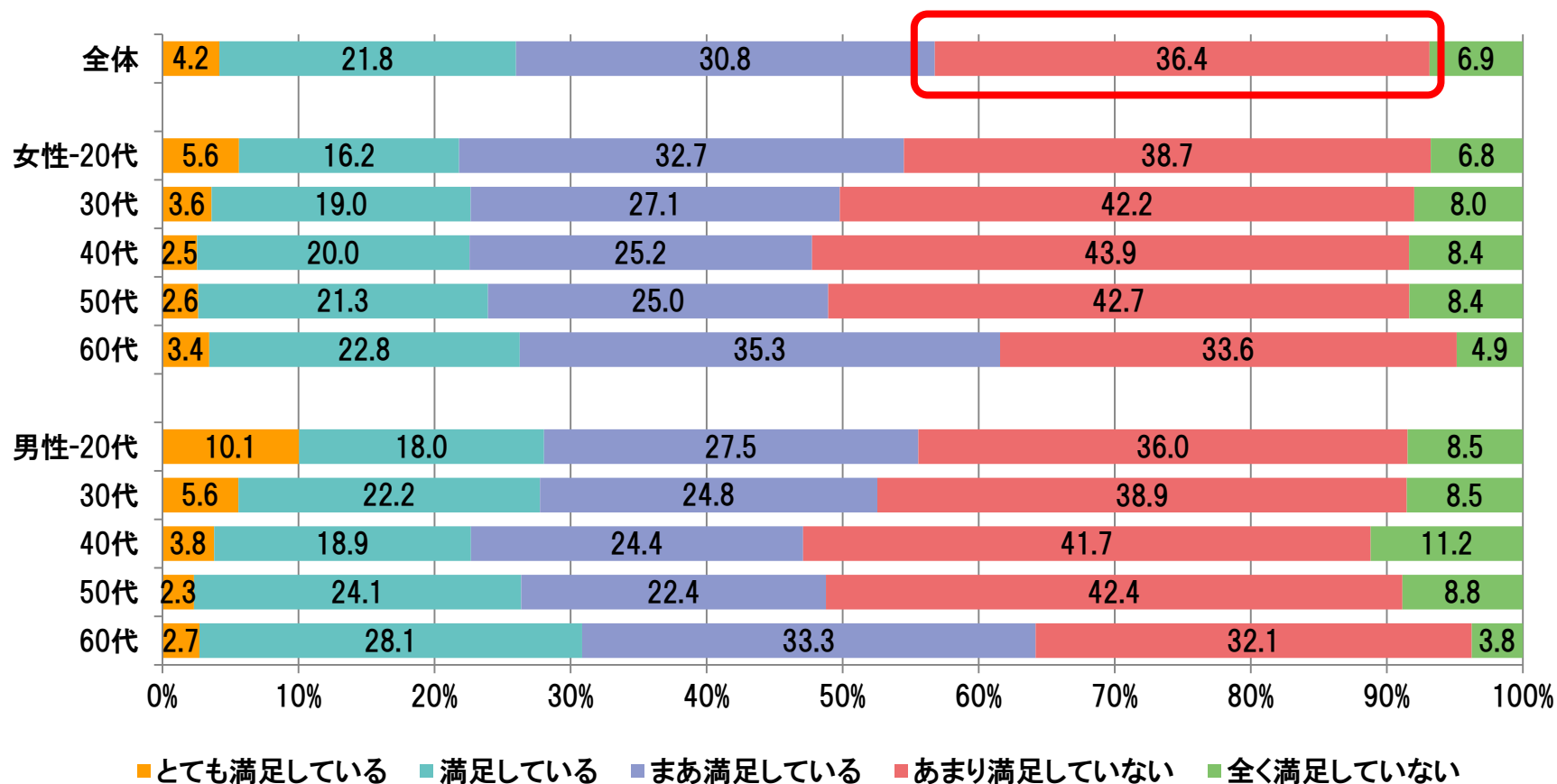
今よりもっと時間をかけたいと思っていること



Q.今の自分の時間の使い方に満足していますか？(性・年代別)

今の時間の使い方について、「あまり満足していない」という回答が36.4%でトップでした。前項の2つの質問からもわかる通り、「今の時間の使い方」と、「今よりもっと時間を使いたいこと」にギャップが生じている様子がうかがえます。

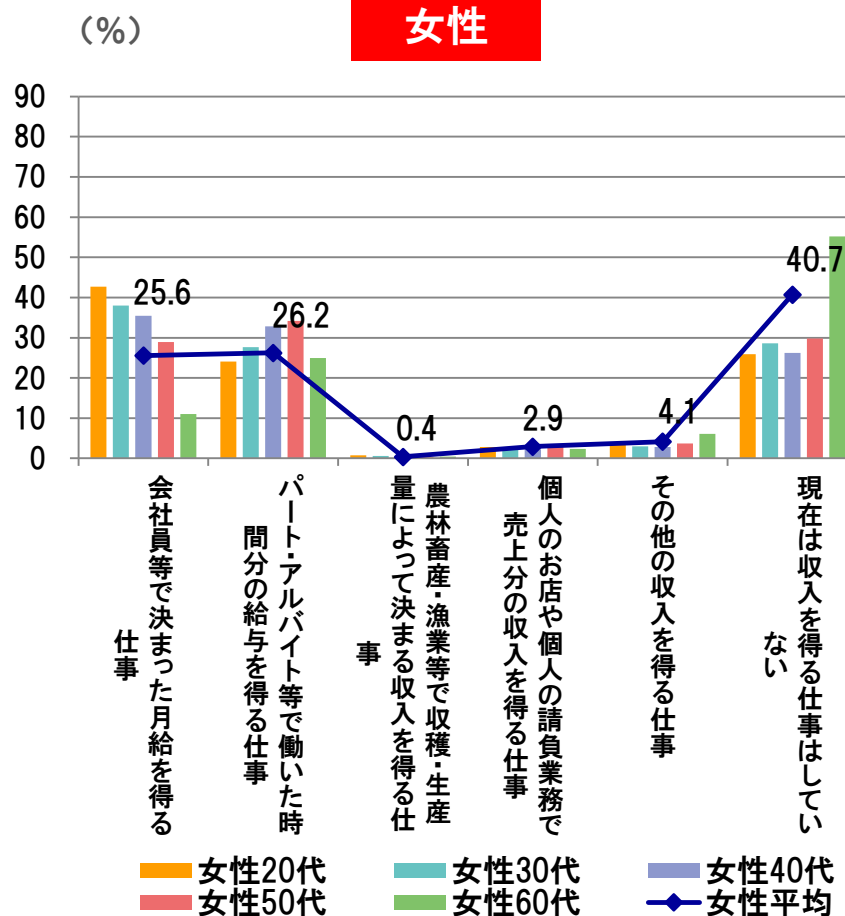
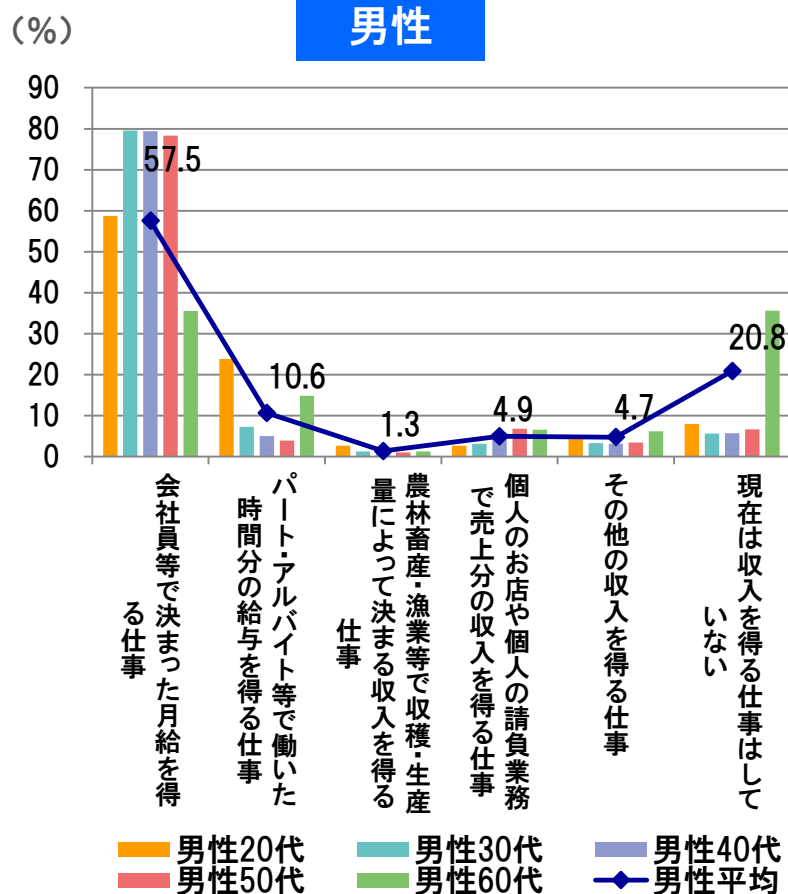
時間の使い方の満足度



Q.今、何かしら収入を得るお仕事をしていますか？

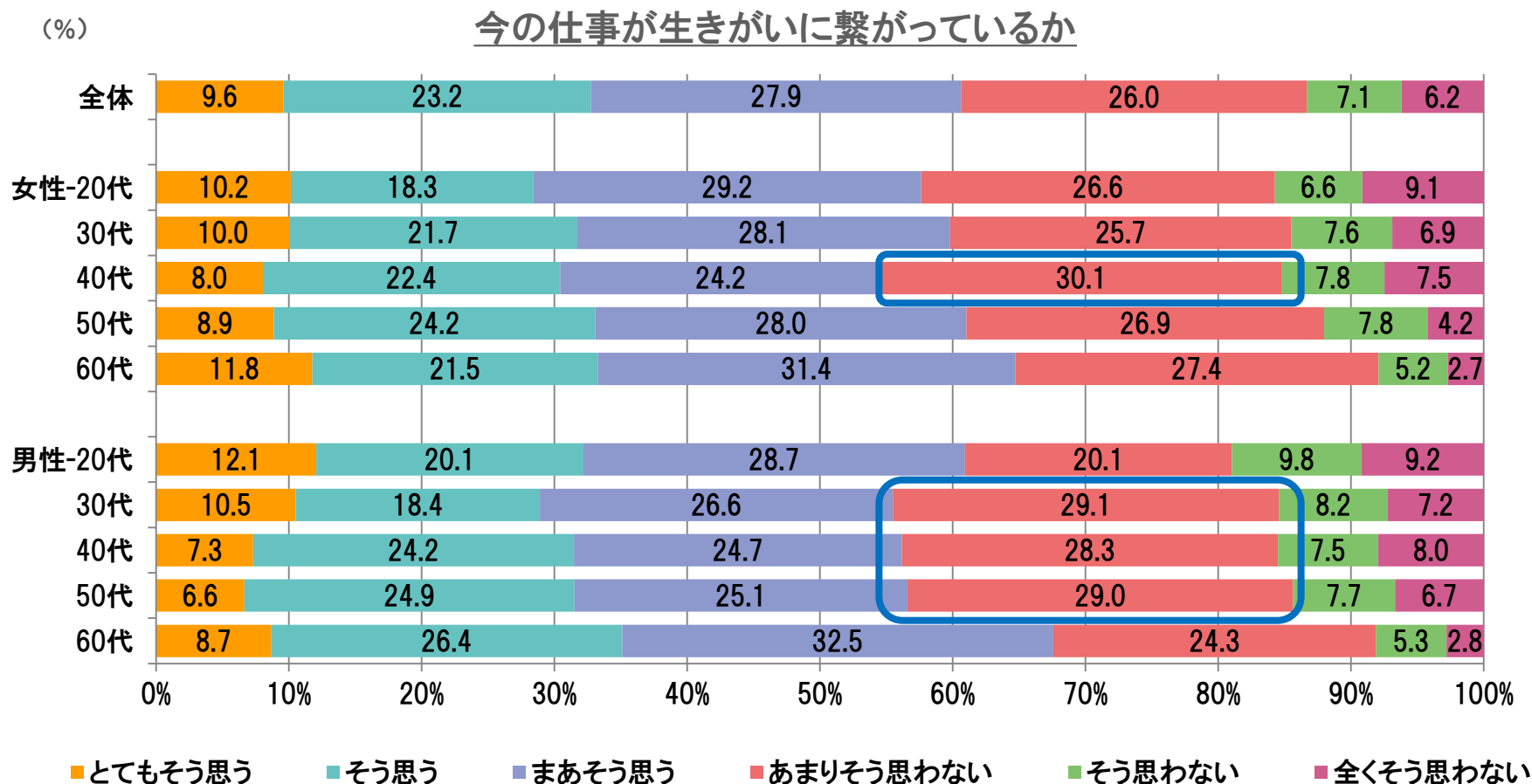
今の就労状況について、お伺いしました。男性は20～50代においては会社員としての働き方が圧倒的に多い一方で、女性は年代を追うごとに会社員としての働き方が減少、パート・アルバイト等の働き方が上昇していることがうかがえます。

就労状況



Q.自分が収入を得ている仕事は、生きがいに繋がっているか？(性・年代別)

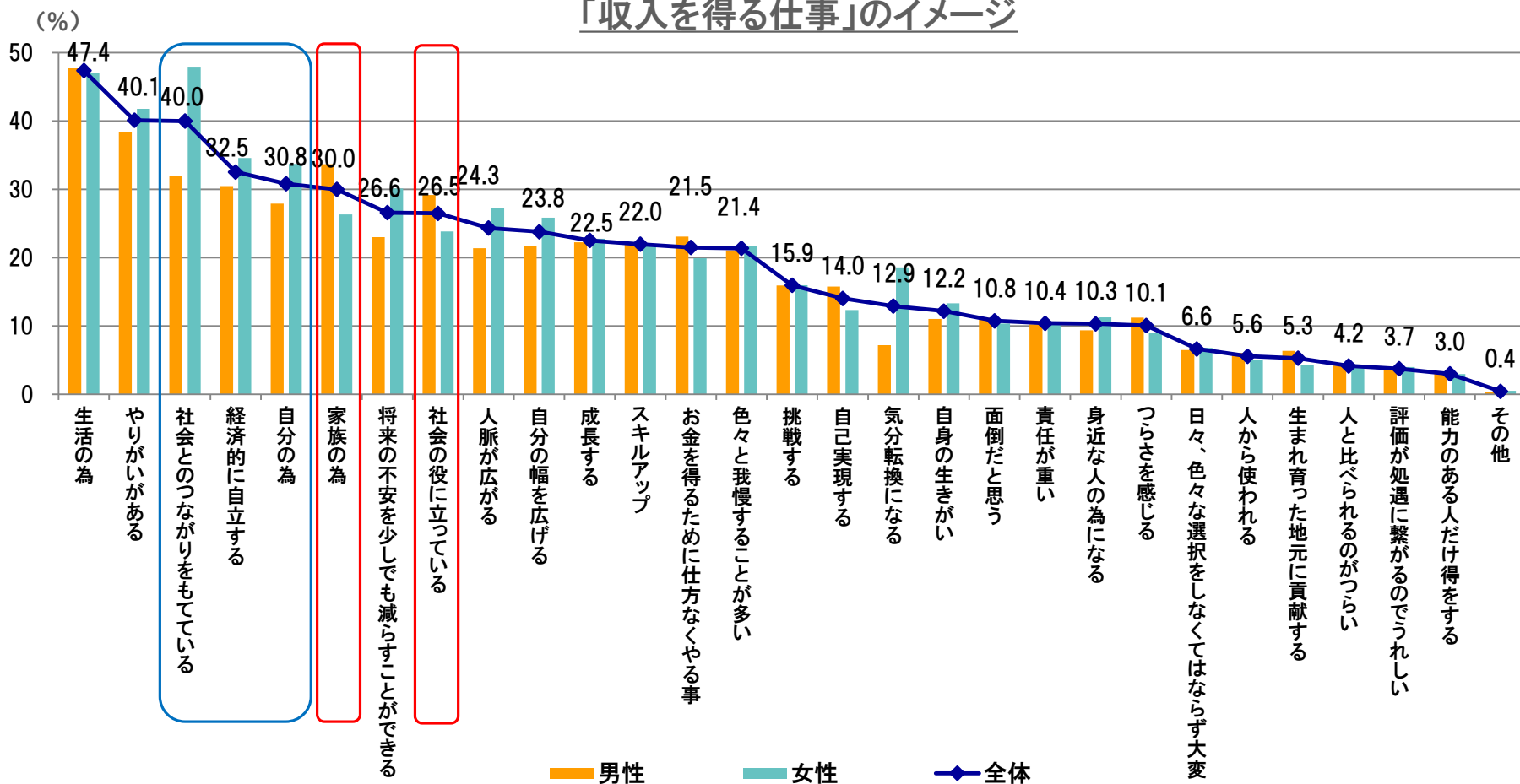
全体で見ると「まあそう思う」の回答が一番多く27.9%。「とてもそう思う」「そう思う」の回答と合わせたときに、仕事が概ね生きがいに繋がっていると考えている人が多い様です。一方で、働き盛りの年代にも入る男性30～50代、女性40代は「あまりそう思わない」との回答が一番多いことが特徴的でした。



Q. 収入を得る仕事とは、どのようなイメージを持っていますか？

女性は「社会とのつながりをもっている」という回答がトップにきており、また「経済的に自立する」「自分の為」という回答も多く、収入を得るお仕事が「自身の社会進出」というイメージもあるようです。一方男性は「生活の為」がトップに来ており、「家族の為」「社会の役に立っている」という回答も多く、「(社会や組織に)貢献する」というイメージがあることもうかがえました。

「収入を得る仕事」のイメージ

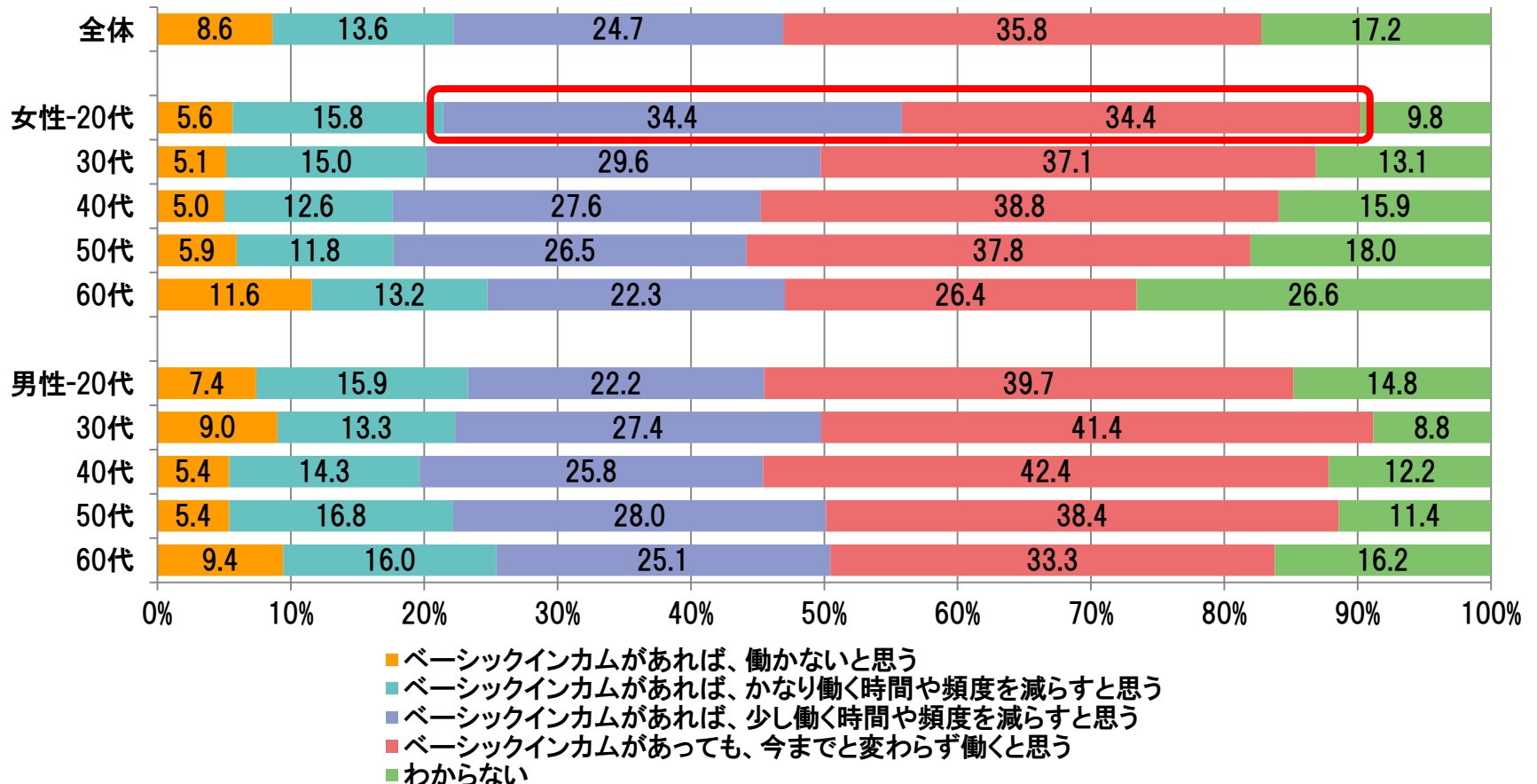


※政府がすべての国民に対して最低限の生活を送るのに必要とされている額の現金を、定期的に支給するという政策を「ベーシックインカム」と呼びます。

Q.ベーシックインカムがあったときの就労意向は？（性・年代別）

ベーシックインカムの意向について伺いました。全体で見ると「今までと変わらず働くと思う」と回答した方が35.8%と一番多いですが、20代女性では「今までと変わらず働くと思う」と「少し働く時間や頻度を減らすと思う」がどちらも34.4%だったことが特徴的です。

ベーシックインカムがあったときの就労意向



Q. 「仮にベーシックインカムで最低限の現金が得られるとしたら、そのとき収入を得るために働きたいと思いますか？」
「少し働く時間や頻度を減らすと思う」と回答した理由

最低限の収入では精神・金銭面で生活が“豊か”にならないため仕事は続けたいとする一方で、もし少し時間に余裕ができれば家族や自己実現のため、またライフイベントに応じた柔軟な働き方を実現させるために時間を使いたいという回答がありました。

「ベーシックインカムがあれば、少し働く時間や頻度を減らすと思う」理由（自由回答）

子どもの教育費を稼ぐために働いているが、**子どものために働く時間を、子どもと過ごす時間に変えたい**と思うから。(30代男性)

時間を**親の介護**に使いたいから。(30代男性)

仕事以外の自分の時間を持ち、様々な発見をしたいから。また、今しか出来ないことや仕事以外の自己啓発等を行いたいから。(40代男性)

他の勉強時間にあてて、**より良い職、就きたい職**につくようにする。(20代男性)

ギリギリの精神状態で働くよりも、**余裕を持って働く方がパフォーマンスを発揮できる**と思います。(20代男性)

ベーシックインカムを基本に、働き方を**その時の生活状況や家族状況で工夫**することが可能になると思うから。(40代男性)

家族との時間が欲しい

生活のため・社会で生きてる実感の為に働きたいと思うけどベーシックインカムがあれば**少し頻度を減らし、家族の時間を作りたい**。(20代女性)

収入を気にせず、**社会との繋がりを持ち家族の時間を大切に過ごすことに時間をかけられそう**だから。(30代女性)

キャリアアップをしたい

減らした分を**キャリアアップの為の勉強や副業等に挑戦する機会**にあてたいと思ったため。(40代女性)

経済的な自立と資格を活かして、社会と繋がっていたい。(40代女性)

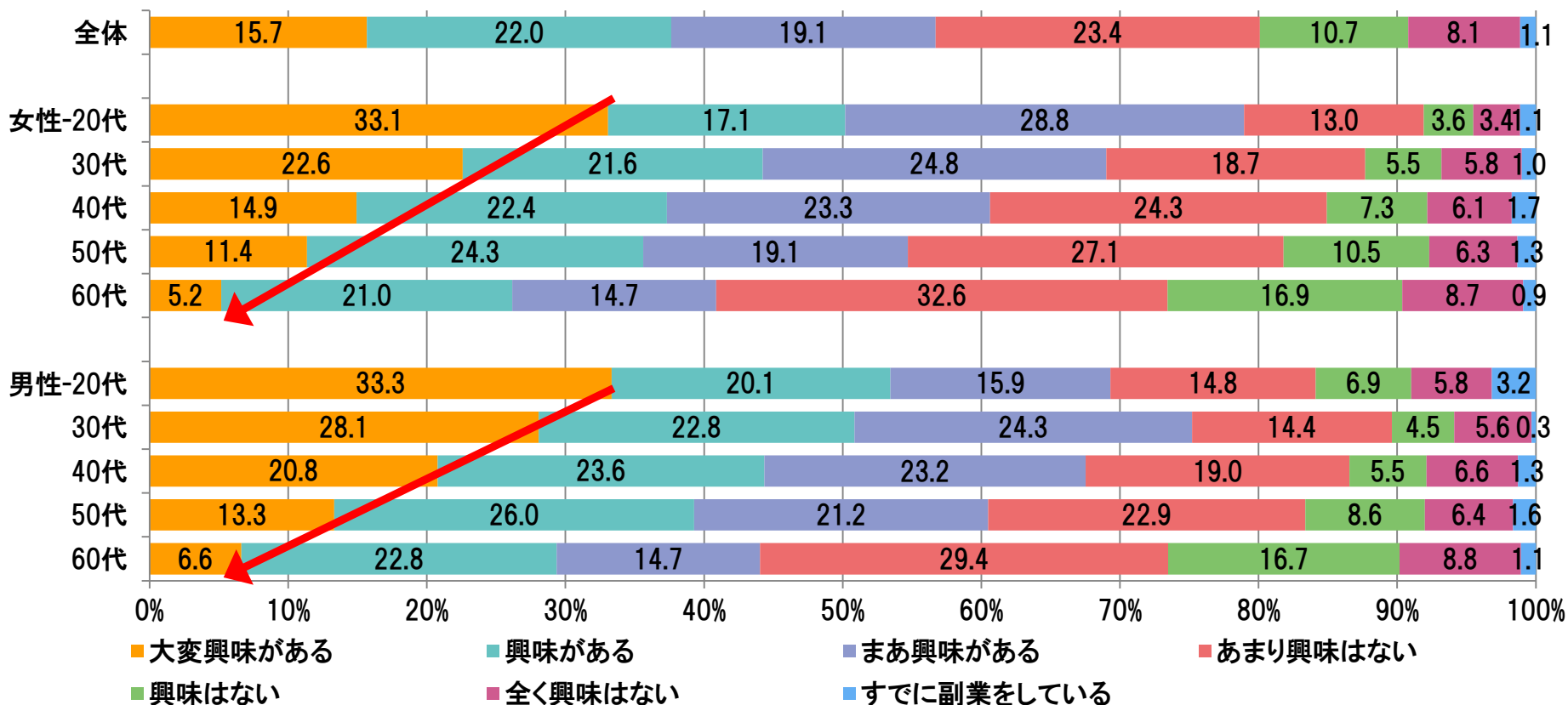
気持ちにゆとりを持ちたい

お金の心配が減ることはとてもリラックスできると思う。気持ちの余裕ができて、人に対しても優しくなれる人が多くなると思う。(50代女性)

Q.「副業」の様な働き方に興味はありますか？

副業の意向について伺いました。男女共に20代では「大変興味がある」の回答一番多く30%を超えています。年代が進むにつれて「大変興味がある」の回答が減少しているのが特徴です。一方で、副業をすでにしていると回答した人は全体の1%程度にとどまりました。

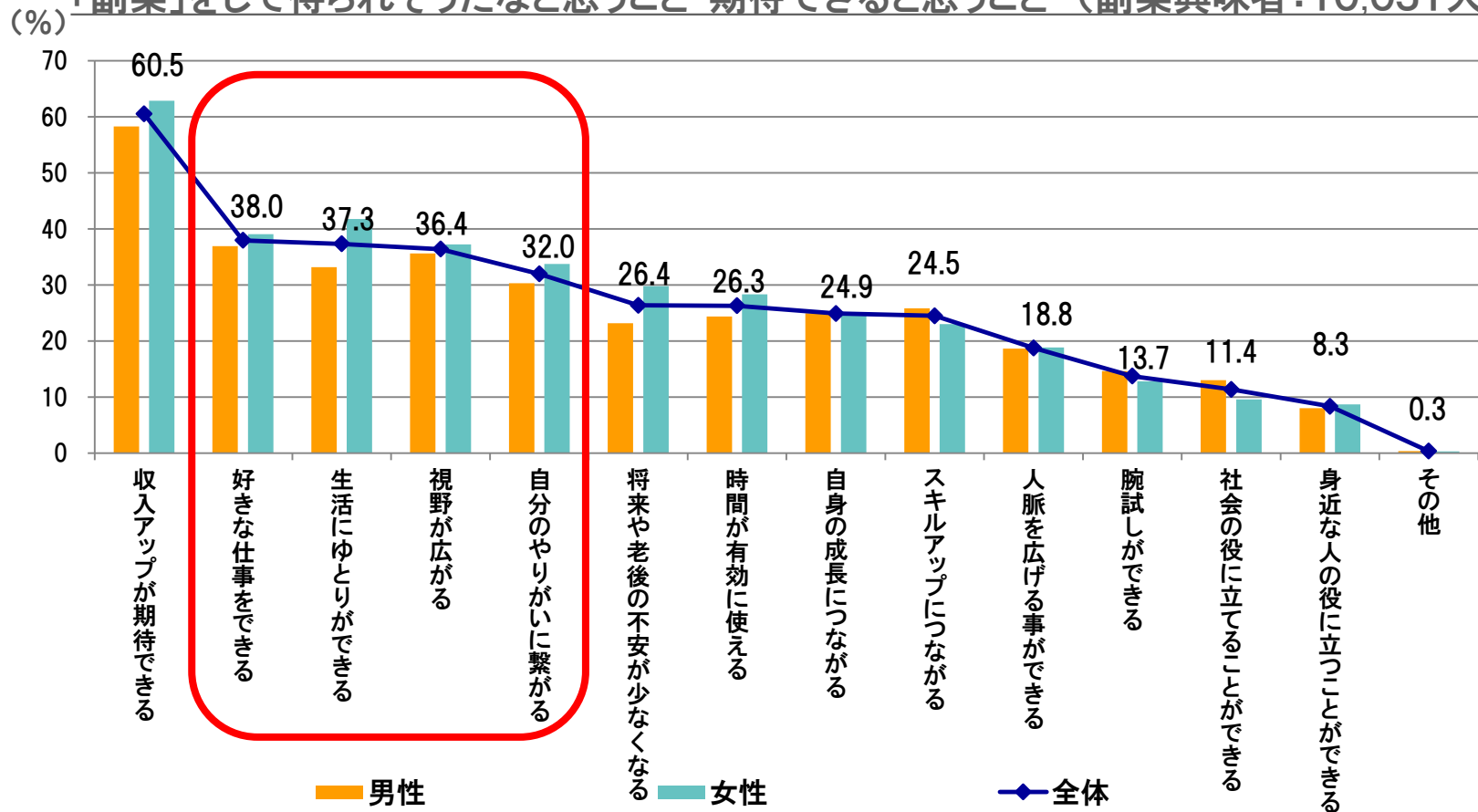
「副業」への興味関心



Q. 副業をして得られそう・期待できると思うこと

副業に興味がある方に、副業で得られそうなものをおうかがいしました。男女共に収入アップへの期待が大きいです。『好きな仕事をできる』『生活にゆとりができる』『視野が広がる』『自分のやりがいに繋がる』といった収入以外の項目も30%を超えており、自分の成長に繋がる働き方としての副業に期待がある様子もうかがえます。

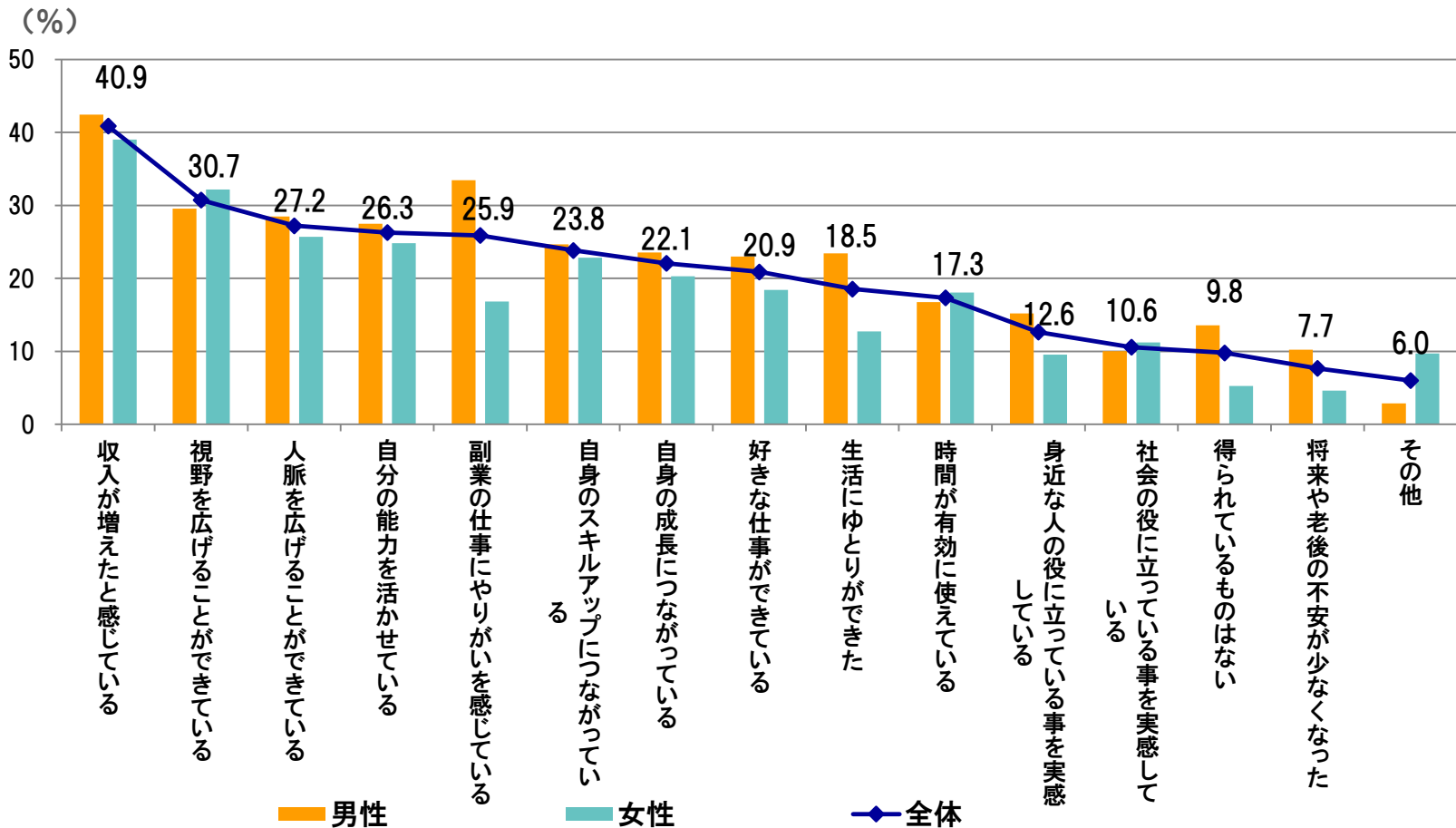
「副業」をして得られそうだなと思うこと・期待できると思うこと（副業興味者：10,051人）



Q.副業をして得られたと感じていることはありますか？

実際副業をしている方に、副業をして得られたと感じていることをお伺いしました。副業に興味がある方が期待していた収入アップが得られているという回答が多いですが、視野や人脈の拡大、また自分の能力を活かしていると感じている方も多く、仕事のスキルアップに貢献できている様子がうかがえます。

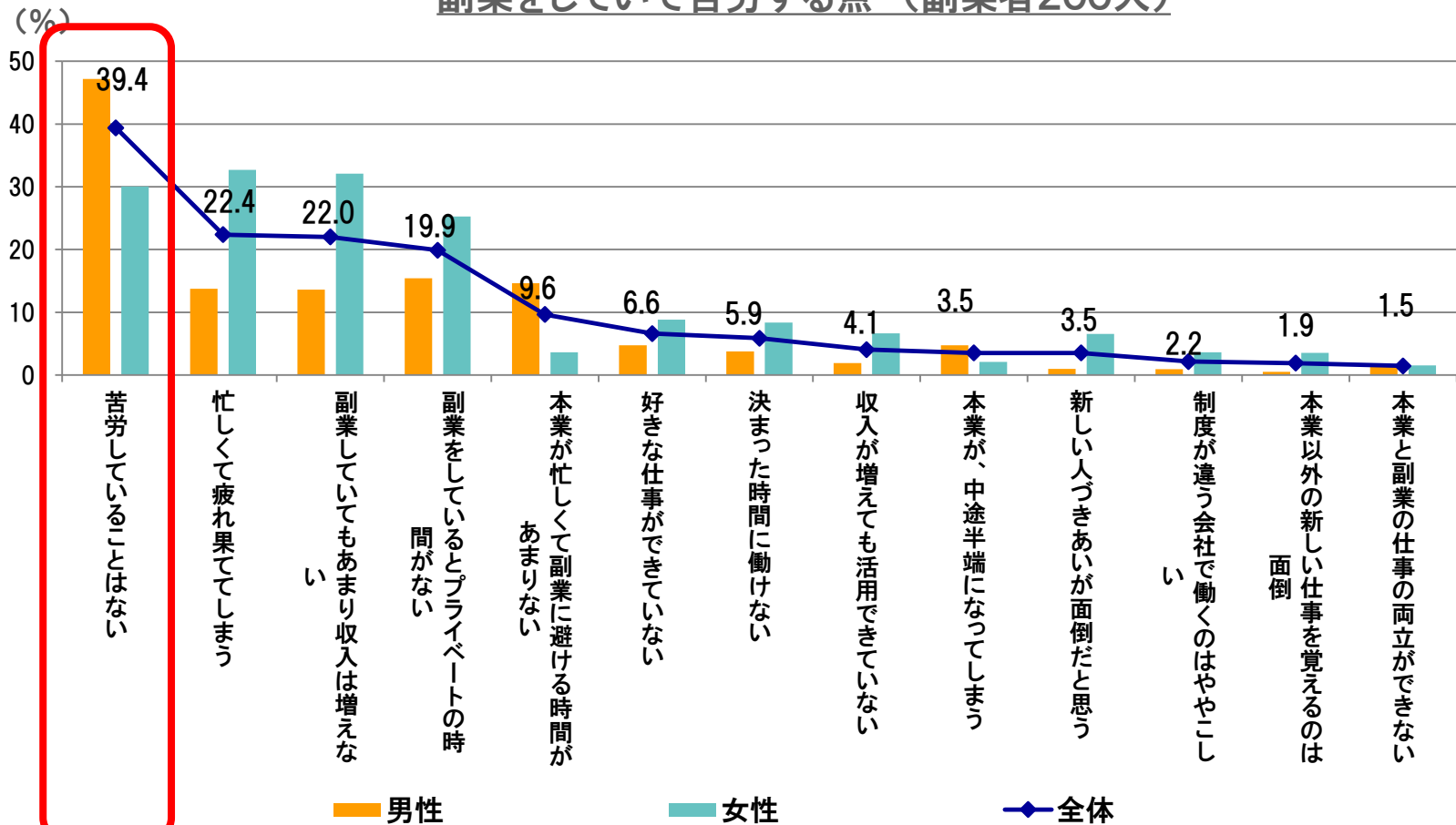
副業をして得られたと感じていることはありますか？（副業者：200人）



Q.副業をして苦労している点はありますか？

男性では「苦労していることはない」がトップ、女性も30%を超えており、副業者はある程度納得しながら副業に向き合っている様子が見えます。また女性では「忙しくて疲れ果ててしまう」「あまり収入が増えない」の項目も多く、副業の理由や職種にもよりますが期待した収入やプライベートの時間の確保の面では苦労もあるようです。

副業をしていて苦労する点（副業者200人）



Q.一度やってみたいな、と思う働き方

在宅勤務など、時間や場所が柔軟になる働き方への意向は多く見受けられましたが、仕事をシェアしたり、ライフスタイルに応じて調整したりと、より柔軟で、幅広い選択肢が与えられている働き方への希望も多くみられました。また、誰かを助ける様な働き方の希望もあり、仕事の中で自分だけでなく人を支えたいと考えている人もいます。

一度やってみたいと思う働き方

インターネットを活用した、**自宅やバケーション先からの働き方**。リラックスしながら、必要に応じて働くという環境で働いてみたいです。(30代男性)

時間・場所が柔軟な働き方

小さい子どもがいながらも在宅で仕事ができればとても有り難いです。急な病気などで会社に迷惑をかけたりすることなく、自分の時間で働けたら一番いいなと思います。(30代女性)

SOHOのように場所や時間を問わない働き方。(40代男性)

隙間時間を活用してワーキングシェアができる働き方。(60代女性)

ワークシェアをすることで、給料は減るが、**時間の余裕が生まれ、責任も分けて負担するような仕組み**で働けるといいなと思います。(50代男性)

1つの仕事をシェアする働き方

その時の自分の**ライフスタイルに合わせて分掌や役割を選択**することができると思います。(40代女性)

スマホを活用した同業者へのアドバイザー。若年層の人生相談など、**少しでも悩みある人の助けになることが収入につながれば**、より親身になって考えることが可能。(40代男性)

ライフスタイルに応じて調整できる働き方

子育てや家事の負担の頻度が年々変わっていく中で、**変化するライフスタイルにその都度合わせられるような働き方**。(40代女性)

自分の資格やスキルを生かして地元だけではなく地方に入ったり日本全国を飛び回れる**人の役に立つ仕事**がしてみたい。(20代男性)

人の助けになる働き方

ご近所さんの御用聞きのようなことで収入が得られるのであればおもしろいなと思います。(40代女性)